

会 議 要 旨

会議の名称	第3回川越市子どもサポート本部会議
開催日時	令和8年2月20日（金）午後6時00分～7時30分
開催場所	川越市役所東庁舎2F 教育委員会室
議長氏名	遠藤克弥（福島学院大学） （進行：大牟田副課長）
出席者	横山敦子（小学校長会）、矢部智史（中学校長会）、関本晶子（PTA連合会）、佐藤保雄（自治会連合会）、遠藤克弥（福島学院大学）、奈良明英（中央南地区サポート委員会）、鈴木誠（中央北地区サポート委員会）、角田忍（芳野地区サポート委員会）、鈴木貴裕（古谷地区サポート委員会）、田中幸二（南古谷地区サポート委員会）、山田幸次（大東地区サポート委員会）、吉羽慶時（霞ヶ関北地区サポート委員会）、世古口竜一（川鶴地区サポート委員会）、美代川幸雄（名細地区サポート委員会）、中島利一（山田地区サポート委員会）、羽生田奈々絵（中央図書館長）、 計16名
欠席者	松本紀美子（子ども会育成団体連絡協議会）、山下正雄（青少年を育てる市民会議・中央地区サポート委員会）、斉藤修（高階地区サポート委員会）、吉里秀一郎（福原地区サポート委員会）、小峰肇（霞ヶ関地区サポート委員会）、小熊政彦（中央公民館長）、中里良明（博物館長） 計 7名
事務局職員	新保正俊教育長、吉野地域教育支援課長、大牟田副課長、杉原指導主事、野原主査、小池主任、吉田社会教育指導員
傍聴者	なし
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 報告・確認事項 令和7年度子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」について【資料1】</p> <p>4 協議事項  (1) 子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」  ・展示会について  ・表彰式について  (2) 令和8年度子どもサポート本部会議年間予定（案） 【資料2】  (3) 令和8年度子どもサポート事業（※体験活動のみ）のアンケートについて  (4) 来年度に向けて各地区情報交換  ・各地区現状・課題</p> <p>5 諸連絡 ※(3)、(4)については各地区子どもサポート委員長のみ配付（封筒）  (1) 令和8年度 第1回川越市子どもサポート本部会議の開催について  （5月中旬を予定。正式に決まり次第連絡）</p>

	<p>(2) 川越市子どもサポート本部委員推薦書・承諾書（変更有の場合のみ）</p> <p>※(3) 令和8年度川越市子どもサポート事業担当者説明会の開催について (報告ㄨ4/2)</p> <p>※(4) 子どもサポート事業実施団体確認書について（報告ㄨ4/2）</p> <p>(5) その他</p> <p>6 謝辞</p> <p>7 閉会</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料1 子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」作品展報告、 作品展観覧者感想、表彰式報告</p> <p>資料2 令和8年度子どもサポート本部会議年間予定（案）</p> <p>別冊 各地区活動報告</p> <p>推薦書、承諾書、広報誌、封筒</p>

## 会 議 録

<p>1 開会【矢部副本部長】</p> <p>2 あいさつ</p> <p>●新保教育長あいさつ</p> <p>●遠藤本部長あいさつ</p> <p>3 報告・確認事項</p> <p>令和7年度子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」について【資料1】</p> <p>●資料1に基づいて事務局より説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参観者アンケートの課題の指摘については、今後検討し改善していく。</li> <li>・資料にある「今後の課題」「検討事項」については、次年度に向けて改善していく。</li> </ul> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展示会について</li> <li>・表彰式について</li> </ul> <p>●委員からの主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもサポート事業の周知、認知の方法を検討すべきである。</li> <li>・作品展の集客を増やすための工夫が必要である。</li> <li>・コンクールの新しいテーマを考えてもよいのではないか。</li> <li>・コンクールの企画の段階から、委員も加わって一緒に考えた方がよい。</li> </ul>
---

(2) 令和8年度子どもサポート本部会議年間予定（案）

【資料2】

●資料2に基づいて事務局より説明

- 『子どもサポートコンクール「小江戸見つけ隊」の在り方について』『発表会の在り方について』を、来年度の専門部会の話し合いの柱の一つにして、1年かけて検討し、再来年度から変えるところは変える。

(3) 令和8年度子どもサポート事業（※体験活動のみ）のアンケートについて

- 事務局より口頭にて提案『教育委員会では、来年度より第四次教育振興基本計画が始まる。その施策指標として、子どもサポート事業の「地域の特色を生かした体験活動」への参加者満足度を測ることになった。具体的な内容や方法については、各地区の活動にご負担のないものにしたいと考えている。詳しくは、年度明けの4月の担当者説明会にて事務局公民館に説明する。』

●委員からの主な意見

- ・満足度の尺度は難しい。
- ・アンケートの内容を見ないと了承できない。
- ・ボランティアでやっている事業であるので、納得できないと協力はできない。
- ・参加者の感想を聞いて、そこから新しいアイデアをもらおうということなら理解できる。

●事務局より

- ・各地区の事業を評価したり、地区ごとに比較したりする意図はない。
- ・遠藤本部長と相談しながら、アンケートの内容や方法を具体的に作成し、各地区委員長にお示しして、ご理解をいただいてから進めていく。

(4) 来年度に向けて各地区情報交換

- ・各地区現状・課題

- 山田：イベントの後、参加したこどもや保護者と話をした。体験をどんどんやってほしいという意見をもらった。費用ができるだけかからないように、新たな企画を考えたい。
- 名細：世代間交流を子どもサポート委員会のテーマにしたい。こども、保護者、地域をつなぎ、学校をからめていく。50～60代がパイプ役になる。新たにボランティアが10人くらい集まった。保護者にあまり負担をかけないようにしたい。防災をテーマに考えている。
- 川鶴：防災キャンプでは、スタッフの高齢化と猛暑のため、宿泊では実施できない。子サポまつりは200人くらい集まる大きなイベントである。地区会議と共催で実施し地域の負担減を図っている。学校応援団的な活動にも取り組んでいく。
- 霞ヶ関北：委員長を引き継ぎ、苦労した。各学校のメインの行事を増やしていくのか検討中である。部長、副部長の会議を毎月設定している。学校応援については各学校からの要望をできるだけ引き受けるようにしている。
- 大東：子どもフェスティバル、寺子屋、学校支援を行った。各学校独自の学校応援団が充実してきたので、サポート委員会は足りない分を補っている。公民館と連携してイベント中心に活動した。
- 南古谷：体験活動を変わず実施した。学校運営協議会で学校応援団を組織した。小江戸見つけ隊作品展ではレイアウト図があるとよいのではないかと。ここで委員長交代の予定である。

- 古谷：活動内容を学校応援団に舵を切って、活動量がほぼ2倍になった。PTAしか協力者が集まらない現実がある。活動が増えたのはよいが、先生たちの負担が増えたように感じる。
- 芳野：事業を増やしていきたいが、サポート委員は増えない。サポート委員を増やす手立てを知りたい。イベントに来た保護者に声かけしていく。
- 中央北：イベントの場所によって参加者の数が違う。安全面を考えながら実施している。学校応援はあまりやっていないが、川越小と月越小の昔あそびの支援を行った。
- 中央南：学校から依頼のあった学校支援を行う。サポート委員会からの発信で初めて寺子屋を実施した。中学生の支援がとてもよかったので来年度から中学生をメインとして大人は支援に回る。ミシン支援の参加者に登録を依頼して、登録者が増えた。時間があったら1回でも協力しようかでよいと伝えている。昔あそび支援は自治会の協力で実施しているので、こどもと地域のつながりができた。同じことを毎年やっていても児童が入れ替わるのでマンネリではない。学校のメール配信も利用している。

## 5 諸連絡 ※(3)、(4)については各地区子どもサポート委員長のみ配付（封筒）

- (1) 令和8年度 第1回川越市子どもサポート本部会議の開催について  
（5月中旬を予定。正式に決まり次第連絡）
- (2) 川越市子どもサポート本部委員推薦書・承諾書（変更有の場合のみ）

●期限に間に合わない場合はできるだけ早く提出をお願いします。

## ※(3) 令和8年度川越市子どもサポート事業担当者説明会の開催について（報告㍻4/2）

●委員の皆様も参加可能です。

## ※(4) 子どもサポート事業実施団体確認書について（報告㍻4/2）

- (5) その他

## 6 謝辞【吉野課長】

●委員の皆様から出された小江戸見つけ隊の課題についてしっかり考えていきたい。アンケートの件では、説明準備不足で申し訳ない。委員の皆様にも納得していただけるように進める。

## 7 閉会【大傘田副課長】